

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1884 号

Yellow tongue coating is associated with diabetes mellitus among Japanese non-smoking men and women: The Toon Health Study

(日本人非喫煙者男女における黄苔と糖尿病との関連：東温スタディ)

友岡 清秀 (ともおか きよひで)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、地域住民において東洋医学の診察所見である黄苔と糖尿病との有意な関連を横断研究に検討より報告した初めての論文である。

Ⅱ型糖尿病は、舌病変などの口腔粘膜疾患と強く関連しているが、これまでに東洋医学における舌診所見である黄苔とⅡ型糖尿病との関連に着目した報告はほとんどない。本研究は、2011年から2014年の間に愛媛県東温市で行われている循環器疾患予防を目的とした前向きコホート研究である「東温スタディ」に参加した30から79歳の非喫煙者の男性315名、女性654名を対象とした。舌苔は一人の鍼灸師により評価され、白苔（正常）、白黄苔、黄苔の3段階で分類された。また、舌画像からCIE Lab色空間や色相を用いて客観的に黄苔の評価も行った。75gブドウ糖負荷試験により糖尿病型及び境界型糖尿病を定義した。統計解析は、黄苔と糖尿病及び境界型糖尿病との関連について、年齢、性別、Body mass index、飲酒習慣、身体活動量を調整した、多変量ロジスティック回帰分析を行った。結果として、糖尿病を有する者の多変量調整オッズ比(95%信頼区間)は、白苔に対して、白黄苔では1.39(0.72-2.67, $p = 0.33$)、黄苔では2.23(1.16-4.30, $p = 0.02$)であった。同様に、境界型糖尿病の多変量調整オッズ比(95%信頼区間)は、1.13(0.80-1.61, $p = 0.18$)と1.43(0.96-2.12, $p = 0.08$)であった。

本論文は、糖尿病診断における東洋医学的アプローチの可能性を示唆すると同時に、黄苔は未診断の糖尿病患者の早期発見の一助となる可能性を示唆しており、医学的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと判定した。